

～滑走路周辺の刈草を知多牛の飼料へ～

刈草の資源循環 (SDGs) の推進について

(有)エル・ファーム・サカキバラと6月11日に覚書を締結

中部国際空港セントレアでは、SDGsの一環として、滑走路周辺の緑地帯で発生する刈草を地元の農場で飼育されている牛の飼料や敷料といった資源として有効活用する取組みを始めます。これに先立ち、中部国際空港株式会社は(有)エル・ファーム・サカキバラとの間で6月11日に覚書を締結することとなりました。

空港では航空機の運航の安全上、滑走路周辺に緑地帯を設けており、その維持管理で年間約200トンの刈草が発生しています。これまでその刈草については、常滑市から指定された廃棄物処理業者に持ち込み処理されていました。

当社では、この刈草を資源循環の観点から有効活用することを検討し、愛知県知多農林水産事務所や愛知県知多酪農協同組合に指導を受け、地元の酪農事業者に活用を呼びかけたところ、半田市に牧場を持つ(有)エル・ファーム・サカキバラに牛の飼料や敷料として活用していただけることとなりました。

また、敷料については、畜農連携により南知多町の農地で堆肥としても活用されます。

中部国際空港セントレアは、空港建設段階から人と環境にやさしい空港を目指してきており、これからも循環型社会の構築及び持続可能な社会の実現 (SDGs) に向けて、地元の皆様と連携し取り組んでまいります。

■取組みのSDGsの意義について

- ・ 刈草の資源循環の実現(牛の飼料・敷料、農地の堆肥)
- ・ 南知多町の土地を肥沃な土壌に改良
- ・ 異業種間連携
- ・ CO2削減、気候変動抑制、クリーンな街作りへの配慮維持



■事業の流れについて

- ①滑走路周辺緑地帯の草刈り → ②刈草の運搬 → ③牛の飼料・敷料として活用 → ④敷料を堆肥として再利用
- ヤハギ緑化(株) サンエイ(株) (有)エル・ファーム・サカキバラ 南知多町の農家



■覚書の締結について

・日付：6月11日

・出席者：

有限会社エル・ファーム・サカキバラ 代表取締役 榊原 一智 様

ヤハギ緑化株式会社 取締役 足立 幸弥 様

サンエイ株式会社 サービス事業部 課長 石原 晴之 様

愛知県知多農林水産事務所 所長 尾畑 厚志 様

中部国際空港株式会社 代表取締役社長 犬塚 力

中部国際空港施設サービス株式会社 常務取締役 久保 明義

(参考)

(有) エル・ファーム・サカキバラ について

- ・会社名称: 農業生産法人 有限会社 エル・ファーム・サカキバラ
- ・愛知県知多半島と静岡県富士山麓で安全・安心なおいしい牛乳・牛肉を生産する農場を経営
- ・知多農場では、肉牛1,200頭(知多牛)、乳牛310頭(生乳8トン/日)を飼育
- ・知多牛専門焼肉店「美味知多牛溶岩焼 黒牛の里」なども経営し、知多牛ブランドの確立に取り組む

